

**平成30年度 事業報告書**

自 平成30年4月 1日

至 平成31年3月31日

**I. 概要**

主力のプリズム式双眼鏡の日本からの輸出(出所:財務省輸出入統計)は、数量で約10万個、金額で29億円(前年29億円、平均単価は約3万円)、対前年比数量・金額ともに同水準であった。仕向け地別輸出金額上位5ヶ国の高額順、及び平均単価・シェア(カッコ内)は、①米国14億円(3万円、46%)、②ドイツ4.8億円(2.2万円、16%)、③オランダ3.3億円(4.5万円、11%)、④カナダ1.8億円(4.6万円、6%)、⑤オーストラリア0.8億円(4.6万円、3%)と欧米市場が堅調であった(輸出全体では79%)。

同じくプリズム式双眼鏡の自主統計(出所:生産販売統計、産地直送含む)では、国内販売が好調で前年比数量、金額とも20%増であった。輸出は数量で1%増、金額で11%増であった。金額ベースでの国内対輸出比率は20%対80%(前年18%:82%)でほぼ同水準であった。

なお、国内を含む売上比率は、①北米50%、②欧州23%、③国内19%、④その他8%で北米が5割であった。

本年度出展したイベントは、①経産省こどもデー(初)、②原村星まつり、③胎内星まつり、④練馬まつり、⑤ジャパンバードフェスティバル。

★霞が関こどもデーには経産省のご協力で、経産省地下講堂壇上にて30m先の天体・野鳥写真画像を配置して、①天体望遠鏡、②スポッティングスコープ、③単眼鏡(ゴルフ距離計含む)、④双眼鏡(防振含む)による観望を楽しんでもらった。カットモデル、カタログなども準備した。多くの親子連れが訪れ観望を楽しんでいた。

★CP+2019では出展メーカー9社を巡ってのスタンプラリーを昨年が続いて実施した。857名(前年752名、14%増)のご応募があり、厳選なる抽選のうえ各社協賛品の双眼鏡、天体望遠鏡、三脚、ハーネス等、計22点について各社様より発送した。

平成30年度(2018年/2019年)の当工業会各事業の具体的内容について、以下の通り報告する。

**II. 事業報告****1. 会議**

1.1 第42回通常総会:平成30年5月25日(金)、池袋東京セミナー学院にて開催し議案は全て承認された。

**【議案】**

- 第1号議案 平成29年度事業報告書及び収支決算書承認の件
- 第2号議案 平成30年度事業計画書承認の件
- 第3号議案 平成30年度会費の額及びその納入方法承認の件
- 第4号議案 平成30年度収支予算書承認の件
- 第5号議案 役員(理事・監事)選任の件

・総会懇親会は平成30年5月25日(金)、池袋東京セミナー学院にて開催、出席者は56名。

1.2 臨時総会:平成31年1月18日(金)、池袋東京セミナー学院にて開催し議案は承認された。

第1号議案 3名の理事候補選任の件

・賀詞交歓会は平成31年1月18日(金)、池袋東京セミナー学院にて開催、出席者は70名。

1.3 理事会:新公益法人改革の法律及び定款にもとづき、継続事業報告を実施し進捗を確認。

①5月11日(金):第42回通常総会議案審議、総会運営要領の件、他。

②5月25日(金):第42回通常総会上程議案審議の件。

③8月31日(金):継続事業1～6の実施進捗状況報告の件、イベント出展報告(7月～8月)、他

④12月12日(水):継続事業1～6の実施進捗状況報告の件、イベント出展報告(10月～11月)、他。

⑤平成31年1月18日(金):継続事業1～6の実施状況報告の件、新年度理事会日程、他。

⑥平成31年3月15日(金):第43回総会議案審議の件、継続事業1～6の実施状況報告、他。

1.4 総務広報委員会:平成31年2月25日 平成31年度事業計画&収支予算書の検討

1.5 技術委員会:平成31年3月5日 平成31年度技術委員会予算及び技術研修会テーマ検討

1.6 業界活性化委員会:平成30年11月14日 CP+2019スタンプラリーの実施、他を検討。

**2. 会員入退会情報**

2.1 平成31年3月31日付現在の会員数:正会員数29社(1社減)、賛助会員数8社(変わらず)

**3. 「双眼鏡・望遠鏡歴史展示室」**

3.1 12月、ケンコー・トキナー様より最新双眼鏡VCスマート2機種(10×30、14×30)寄贈品を賜りました。

- 3.2 12月、帝国データバンク資料館館長の小峰様より双眼鏡(6×24偕公社、K.T) 寄贈品を賜りました。
- 3.3 1月、ニコン様よりニコン100周年史(Ⅰ、Ⅱ)を2セット寄贈品を賜りました。
- 3.4 高千穂大学の双眼鏡の産地研究に協力した。理事会社5社を訪問・インタビューをおこなった。
- 3.5 NHK大河ドラマいだてんに双眼鏡モナーク・オペラグラスを貸出した(劇中しばしば登場)。
- 3.6 埼玉県のブギンレポートに協力した(大木富治氏の著書:双眼鏡輸出貢献者、他の資料貸出)。

#### 4. 継続事業報告

##### 4.1 国際標準化規格関連事業 (ISO/TC172/SC4分科会)

###### 4.1.1 議長:Mr. Franz Erler(オーストリア)(暫定2019末まで、注1)

事務局:DIN, Ms. Sabine Pintaske(ドイツ)(暫定、注1)

作業グループ:WG2(Telescopic devices(望遠装置)、注2)が活動中。

Pメンバー(9ヶ国):オーストリア、中国、ドイツ、日本、ルーマニア、ロシア、イギリス、アメリカ、韓国

Oメンバー(7ヶ国):フランス、ポーランド、サウジアラビア、スロバキア、スイス、スペイン、クロアチア

注1:平成29(2017)年10月のTC172総会の決議により、暫定的に議長を、Franz Erler氏(オーストリア)とし、事務局はDIN(ドイツ)が代行することとなった。

注2:WG2は当初ライフルスコープを対象としていたが、他のWGが全て解散したこともあり、組織体制の検討の結果、SC4全体のWG組織として名称変更された。

###### 4.1.2 SC4国内委員会活動経過(2018.4~2019.3)

###### (1) 活動概要

- ・平成30(2018)年度中に、SC4国際会議は面談で1回、WEB会議で1回が開催された。国内会議は4回開催した。
- ・ISO投票は、7件(NWIP1件、CD3件、DIS無し、SR3件)実施した。
- ・ISO規格では、発行済み21件を所掌し、現在3件(改正1件、新規2件)が作業中である。なお、改正以外の理由で廃止された規格は無い。
- ・また、JSA公募制度により、JIS B 7157:2003 望遠鏡用語の改正原案作成委員会を4回開催し、改正原案を作成した。

###### 4.1.3 5月10日 [国内委]

- ・5月22,23日に開催される国際会議の議題について検討を行った。
- AWI14490-9望遠鏡試験方法第9部像面湾曲については、測定点数について、中心を含めて片側3点、合計5点とすることを提案する。
- 望遠鏡操作部の規格提案については、業界で統一に積極的ではないことから当面は推奨とすることをコメントする。
- NWIP14490-X 望遠鏡試験方法(第10部軸上の色収差)については、倍率の色収差もあることから、名称の変更を提案する。
- ・6月に開催予定のJISB7157望遠鏡用語改正の原案作成委員会審議用資料について確認した。

###### 4.1.4 5月22、23日 [国際委]

- ・DIN本部(ドイツ)にてSC4総会及びWG2会議が開催され、事務局を含めて5カ国10名が参加した。
- ・SC4総会では、組織体制やスコープ(活動範囲)等について議論され、変更点が決議された。

###### 4.1.5 平成31(2019)年1月18日 [国内委]

- ・以下のISO投票について検討した。特に、CD14490-10については、試験装置の色収差の要求が厳しいため、現実的な値にするような提案の準備をすることとした。
- CD 14490-10 望遠鏡試験方法(第10部軸上のカラーパフォーマンス)(〆切2019-03-01)
- SR 14132-5:2008 望遠鏡用語第5部ナイトビジョン(〆切2019-03-04)
- SR 21094:2008 ナイトビジョン特性(〆切2019-03-04)
- SR 14490-8:2011望遠鏡試験方法第8部ナイトビジョン(〆切2019-03-04)
- ・今後のISO TC172/SC4対応の国内体制について、次期委員長候補を紹介した。
- ・平成31(2019)年5月20,21日、ウィーン(オーストリア)で開催されるSC4及び同WG2国際会議への対応について議論し、2名を派遣することとした。

###### 4.1.6 活動内容と総括

TC172/SC4は、「光学及びフォトンクス関連の分野のうち、望遠鏡の用語、性能特性、試験方法における規格」を制定する技術委員会であり、1992年10月にサンクトペテルブルグで開かれた第1回国際会議でSC4の活動が始まり、これまでに20件の規格が審議・制定されてきた。またSC1から1件の規格が移管されており、合計21件を所掌している。

なお、Pメンバー9ヶ国のうち、最近国際会議に参加しているのは、ドイツ、オーストリア、ルーマニア、アメリカ、日本の5カ国である。Oメンバーにはクロアチアが加わり7カ国となった。

議長、事務局は当初ロシアだったが、現在は暫定的に議長オーストリア、事務局DIN(ドイツ)となっている。

現在、これまでに提案・審議が進められてきた、9336-3、14490-9、14490-10がCDからDIS段階となり、規格発行に向けて最後の段階を迎えており注視してゆく。

そのほか、発行済みの規格については、見直しまたは改正が進められており、SC4国内委員会は、投票やコメントはもとより、これらの作業や審議に積極的にに関わり、検討・討議を行なっている。また、必要に応じてこれらのISOをもとにJIS原案を作成し提案している。

#### 4.1.7 [これまでに日本で原案を作成した規格]

- ISO14132-4 望遠鏡用語(第4部:天体望遠鏡)
- ISO14134 天体望遠鏡特性(一般品と高性能品の2規格を統一)
- ISO14490-4 望遠鏡試験方法(第4部:天体望遠鏡)

#### 4.1.8 [規格の審議状況:2017年のみ記載]

- ISO 14135-1:2017 ライフレスコープ特性(一般品)(第3版)2017/07/31
- ISO 14135-2:2017 ライフレスコープ特性(高性能品)(第3版)2017/07/31
- ISO 14490-5:2017 望遠鏡試験方法(第5部:透過率)2017/07/26

#### 4.1.9 [CD,DIS]

- CD14490-10 望遠鏡試験方法(第10部軸上カラーパフォーマンス)
- DIS14490-9 望遠鏡試験方法(第9部像面湾曲)
- DIS9336-3 OTFの応用(第3部:望遠鏡)の改正

#### 4.1.10 [NWI, WD]

- Proposed annex for 14132-2 Practical eye relief
- PWI 望遠鏡の操作部

#### 4.1.11 [JIS原案作成委員会]

ISO14132-1,-2,-3,-4(望遠鏡用語(第1部:共通用語、第2部単眼鏡、双眼鏡、スポッティングスコープ、第3部ライフレスコープ、第4部天体望遠鏡))を基にしたJISB7157:2003について、ISOの改正状況に対応して改正するため、日本規格協会の公募制度(H30年度A)に応募・採択され、4回の委員会(内1回は書面)での審議を経て、原案を平成30(2018)年度に作成した。

## 4.2 ホームページ関連事業

平成29年度事業報告・収支報告、及び平成30年度事業計画・収支予算書(6月)、会員名簿・役員変更、財務省統計(3ヶ月毎更新)、イベントカレンダーの更新(1回)、バナーリンクの設置(CP+2019スタンプラリー)、検査工具機器在庫情報の更新(2回)。

## 4.3 イベント関連事業

### 4.3.1 野鳥関係

#### ① ジャパンバードフェスティバル(JBF2018)

会期:平成30年11月3日(土)~4日(日)、会場:千葉県我孫子市手賀沼親水広場、(公財)山科鳥類研究所、他  
主催:ジャパンバードフェスティバル実行委員会(事務局は我孫子市)、出展:工業会関連社  
会議日:平成30年4月20日総会、6月22日、8月17日、10月5日、11月22日、平成31年2月22日

### 4.3.2 天体関係

#### ① 原村星まつり

会期:平成30年8月3日(金)~5日(日)、会場:長野県諏訪郡原村、八ヶ岳自然文化園内  
主催:原村星まつり実行委員会、出展:工業会関連7社、(一社)日本望遠鏡工業会

#### ② 胎内星まつり

会期:平成30年8月24日(金)~26日(日)、会場:新潟県胎内市胎内平  
主催:胎内星まつり実行委員会、出展:工業会関連9社、(一社)日本望遠鏡工業会

### 4.3.3 その他イベント

① 経産省子どもデー :平成30年8月1日(水)~2日(木)、会場:霞が関経産省地下講堂  
主催:経産省

② 練馬まつり :平成30年10月21日、会場:東京都練馬区としまえん  
主催:東京都練馬区、出展:(一社)日本望遠鏡工業会

#### 4.4 調査広報事業

4.4.1 公式発表されている財務省関税局輸出入通関統計(双眼鏡、単眼鏡、ライフルスコープ等)をホームページに掲載すると共に会員向けには会報内に掲載。なお、会員企業による自主統計は継続中。

4.4.2 国内外の市場・流通動向:諸統計にて掲載。

4.4.3 各種イベント案内:ホームページに掲載すると共に会員向けには会報(電子メール)にてお知らせした。

4.4.4 事業成果の普及:通常総会にて承認後、ホームページに掲載した。

#### 4.5 関連団体提携事業

4.5.1 軽機械センター運営協議会への参画事業:中国・欧州情報収集

- ・6月25日、幹事会(会計報告・事業計画)に出席した。  
平成31年2月8日、幹事会に出席した。平成31年予算書を審議し承認された。  
石井北京事務所所長の中国事情の報告会、経産省玉井課長からの最新報告があった。
- ・会員構成:(一社)ビジネス機械・情報システム産業協会、日本機械輸出組合、JETRO、(一社)日本時計協会、(一社)カメラ映像機器工業会、(一社)日本縫製機械工業会、(一社)日本望遠鏡工業会

4.5.2 日本光学工業協会への事業運営参加:国際標準化規格、JIS関連、技能検定等々、TC172活動報告の発行

- ・6月7日(木)役員会(事業報告&会計報告、事業計画&収支予算書)に出席した。
- ・会員構成:日本顕微鏡工業会、日本光学測定機器工業会、日本医用光学機器工業会、(一社)カメラ映像機器工業会、(一社)日本測量機器工業会、(一社)日本写真映像用品工業会、(一社)日本望遠鏡工業会

4.5.3 (一社)日本写真映像用品工業会との業務提携:CP+協力、各種イベントにて用品年鑑を配布した。

6月5日フォトネキスト見学・情報交流、6月20日元気の出るセミナー&会員交流会に参加、12月13日定時社員総会オブザーバー出席・会員交流忘年会に参加した。

4.5.4 (一社)天体望遠鏡博物館(四国さぬき市、結願の里)との業務提携:情報共有を継続している。

4.5.5 日本天文協議会(2010年9月9日発足)への参画:

- ・平成28年(2016年)2月18日付で入会。
- ・30年度は星空関係イベントの後援名義について、2件の承認依頼があった。
- ・5月7日、10月1日の運営協議会に参加。「一家に一台天体望遠鏡」について工業会見解を文書提出。  
日本天文協議会(抜粋):世界天文年2009の成果を引き継ぎ、日本の天文研究、普及・アマチュアが一体となって、天文と科学の理解を日本の社会に広げるための合同組織(会長:渡辺潤一 副会長)。

会員構成:(公社)日本天文学会、自然科学研究機構 国立天文台、宇宙航空研究開発機構、天文教育普及研究会、日本プラネタリウム協議会、日本公開天文台協会、日本天文愛好者連絡会、星空を守る会、(一社)日本望遠鏡工業会

#### 4.6 経営環境関連事業

4.6.1 中小企業経営強化税制について継続してホームページで紹介した。

4.6.2 研修会開催事業(技術委員会主催)

- ・11月28日天体写真家・飯島 裕氏様による「星景写真と双眼鏡」を実施した。参加者は27名。

4.6.3 部会活動事業 1.5 業界活性化委員会にて記述。

#### 5. 検査・測定機器

5.1 検査依頼:合計39件(前年36件)

依頼検査・性能検査(9件)、検定・校正(視度望遠鏡24件)、分光透過率測定(6件)

5.2 検査器具販売:合計129件(前年131件)

視度望遠鏡92本(前年77本)、携帯型光軸平行器3個(前年6個)、ランプ22個(前年48個)、他15個。

#### 6. 行政府機関等への調査協力

6.1 経済産業省産業機械課:セーフティーネット保証5号、分類番号2751:顕微鏡・望遠鏡  
データ内容は主力のプリズム式双眼鏡に関して、自主統計(協力企業)をもとにした生産・販売動向。  
調査期間は平成28年~30年、1月~3月、4月~6月、7月~9月、10月~12月、年4回  
なお、データの回答は顕微鏡工業会と協議のうえ望遠鏡工業会にて回答を継続中。

6.2 東京都産業労働局商工部経営支援課:東京都概要調及び業種別動向調査、11月回答済み  
動向調査期間:平成29年10月~平成30年9月、概要調:平成30年10月末

- ・団体情報連絡会への出席:平成30年7月24日
- ・中小企業支援事業説明会への出席:平成31年3月22日